

国内最大 再生家具のオールインワン工場

シルバー雇用や全国137社の家具職人ネットワークなど地域活性化や売り上げに貢献

(株)エフラボ 代表取締役

松井 正尚 氏



イスに特化したオールインワン工場によるリフォーム事業を展開しているのが、松井正尚社長率いる(株)エフラボだ。七尾市内に敷地面積3000坪、工場面積1000坪、自動倉庫250坪、さらに300坪の別棟保管専用倉庫を保有し、七尾市の協力を得て小学校の廃校も利用している。シルバー雇用にも積極的に取り組み地域の活性化にも努めている。加えて日本全国には137社の協力工場を持ち家具職人の協力ネットワークを構築し、小規模な工場の売り上げアップに貢献している。

当社は石川県内のリフォーム事業に始まりますが、県外の地域の開拓や依頼者と直接対話のできるビジネスモデルを構築したいという思いからイス専門のリフォーム会社として石川県七尾市に拠点を構え

エフラボを立ち上げました。ベンチャー企業として限られた資金の中、七尾市の協力を得て小学校の廃校を活用するほか、七尾市内に在住する大工や建具の経験を持つシルバー層の雇用や県内外問わずイス作りを夢見てきた次世代を担う若者の雇用など、幅広い年齢層が相互に認め、ときにはぶつかり合いながらも、常時60人以上が集い再生家具のオールインワン工場を運営しています。

イスに特化した背景には、例えばホテルの場合、毎日多くの方が利用しているにもかかわらず、客室のベッドやじゅうたんのよう定期的な取り換えや張替え、メンテナンスが施されてません。職人の人材不足もあり“イスはリフォームするもの”という概念が希薄となりつつあります。脚数も多いため買い替え費用面から優先順位も低くなり、中には購入してから一度もリフォームされていなかったり、壊れやすい安価なものを仕入れるなど、ホテル全体の空間やコンセプトに見合わないイスが数多く点在しています。

ところがお客さまの心理として、ロビーの高好印象を持たれる場合、客室に対しても高い期待されています。その期待度は80%以上にもなります。ダイナーにご満足したお客さまは、朝食にも大きな期待を抱かれます。そんなシーンや場所には必ずと言ってよいほどさりげなくイスが登場しています。あまり目立たない存在ですが空間作りや機能として不可欠な存在なのです。老舗のホテルになるほど高級素材の高価なイスがあります。ところが倉庫に眠っていたり、劣化してしまい見た目も悪く、劣化により座り心地の良い状態でも置かれていたりしています。そこで

独自性のある資産を捨てず再生するという選択をすることで、新品購入予算の6～7割程度に抑えることができ、余った予算をほかへ転用することができる「職人とITの一体化」によるオールインワンのビジネスモデルを構築したのです。

具体的には高速CAM(自動裁断機)3台に小型カメラを搭載させ、職人の持っている技術と発想を機械に取組むことで、効率化アップと大きなコストメリットを追求しました。木工所においても、ネ스팅機能に限定したNCルーター加工機を導入することで、職人だけでは難しかった椅子木工加工の特化が可能となり、縦・横・斜め・穴あけ・研磨の5工程作業の自動化とスピードアップを実現しています。技術者不足といわれる今の時代において職人とIT、専門機械を融合させることで作業場改善にも対応できるようになりました。

上は80歳の熟練したイス職人、下は18歳のイスを創ることを夢見て入社した若い社員を含め総勢43人の正社員がいます。現役引退した元大工や建具職人の登録シルバー人材は30人おり、生きがいの場にもなっています。日本全国には137社の協力工場があります。CAM自動裁断機により、協力工場では“張作業”に専念し、均一な品質を維持できるようにになりました。国内資材メーカーや輸入業者との協調により、良質なイス資材やデザイン豊かな資材を安価に入手可能も可能です。

今後も捨てられる物をお預かりし、再生した物をご希望者に提供する、国内外を視野により良きパートナーとなりえますように努力してまいります。